ユーグレナ、業績に変調

18年度 広告投資カバーできず

ユーグレナは7日、2018年9月期連結決算を発表した。売上高は対前年比9・3%増の15億7400万円の増収を計上したが、損益面では経常損失10億9700万円（前年度は経常利益12億円）と赤字に転落した。前期上期において広告宣伝費を積極的に投資したが、直販化粧品の定期購入顧客のリピート期間、回数が想定を下回るなど、投資分をカバーできなかったことを要因に挙げている。

19年度は、エネルギー・環境事業において、バイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラントが竣工することに伴い建設費など約64億円を計上することから、経常損失が64億円と拡大する見通しを立てている。

ただ、第4四半期期間の概況は、広告宣伝投資を縮小し販売収支の改善に努めたことで直販部門の売上高自体は減少したものの、OEMの売上伸長により四半期売上高は過去最高の40億3800万円を計上している。ヘルスケア事業のセグメント損益では、広告宣伝投資の方針変換で4億8700万円の黒字に転換させている。

今期のヘルスケア事業では、前期までの"成長投資"から"選択と集中"に方針を切り替え、サプリメントのドラッグストア向け販売の強化など事業の拡大を図る。

鈴木氏、福本氏が取締役退任

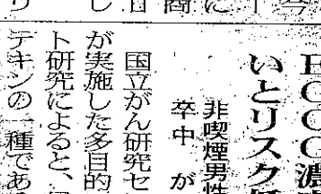
同日には、12月21日付の役員人事が発表され、新任取締役として、慶應義塾大学総合政策学部准教授の琴坂将広氏と、コンサルタント業を営むプロノバの岡島悦子代表取締役社長の2名を社外取締役に選任した。同社では9月に、取締役会の監督機能と業務執行機能分離を目的とした人事異動として、研究開発担当の鈴木健吾氏と、ヘルスケア事業担当の福本拓元氏の2名が12月21日付で取締役を退任し、執行役員として業務を執行することを伝えていた。同2名はユーグレナの創業メンバー。

トレハ類縁体化合物巡り研究報告

トレハと比較し語る

林原が主催する「第22回トレハロースシンポジウム」が9日、東京の御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターで開催され、企業や大学の研究者など約150名が参加した。講演では、微生物化学研究会微生物化学研究所の和田俊一上級研究員（Ⅱ写真）が、トレハロースの類縁体化合物について、トレハロースよりも神経性疾患に対して有効な可能性があると伝えた。

和田氏は、トレハロースはパルツハイマー病に対する有用性を示した論文が3～4件あるものの、明確な作用機序が分かっていないと指摘。その上で、トレハロースの類縁体化合物「レンツトレハロース」は、酵素分解されず血中にそのまま残るなど安定性が高く、抗肥満や抗腫瘍、骨強化などの作用についても、「トレハロースの数倍の効果が示されている」などと説明し、神経変性疾患についても「より効果が期待できる」と述べた。



林原糖質科学会

甘酒市場の拡大を狙う

森永製菓が2品の甘酒発売

森永製菓によると、今年5月に発売したスパークリング甘酒が若年層にも好評を得た。今後も商品数を増やし、更なる甘酒市場の拡大を狙うとしている。

同社は、「スパークリング甘酒（冬限定仕立て）」を20日に全国で発売した。来年1月までの期間限定発売。国産の酒粕と米麹をブレンドした甘酒という。また、栃木県産とちおとめを使用した「いちご甘酒」を12月4日から関東甲信越限定で新発売する。

同社は甘酒の研究も進めている。

EGCG濃度高いとリスク低下

非喫煙男性の脳卒中、がん研

国立がん研究センターが実施した多目的コホート研究によると、緑茶カテキンの一種であるエピガロカテキン3ガレート（EGCG）の血中濃度が高い男性の非喫煙者に限り、脳卒中発症リスクが有意に低下したという。血中の緑茶カテキン濃度と脳卒中及び虚血性心疾患との関連を調査した結果。センターが10月31日に発表した。

研究では、全国9地域の男女2万9000人を追跡調査。その結果、血中EGCG濃度が一番高い非喫煙男性グループは、同濃度が一番低い非喫煙男性グループと比較して、脳卒中発症リスクが47%低かったという。

一方、EGCGとエピガロカテキン、エピカテキン3ガレート、エピカテキンの緑茶カテキンを合わせた血中濃度については、脳卒中及び虚血性心疾患発症の関連は認められなかったという。

上海で2期工事契約

ニュースキン

米国の化粧品・栄養補助食品製造販売のニュースキンは10月27日、上海市政府の大型外資プロジェクト契約調印式で2期工事プロジェクトの契約を締結した。今回のプロジェクトは、14年の大中華創新総部園区の建設に続く、同社最大の海外投資案件となる。

ニュースキン工場2期工事プロジェクトは上海市奉賢区市工場開発区に位置し、敷地面積4万1110平方㍍。操業開始は19年初めの予定で、20年末には初期段階の生産能力に達する見通し。

同工場には、使用原料のロット番号、生産ライン番号など全ての情報を追跡できる製品全過程追跡遡及偽物混入防止プラットフォームを導入。このほか、生産と物流のシームレスな連携を図る自動ストレージと検索システムを採用した。また、省エネや環境保全の理念を取り入れLED認証も取得している。

同プロジェクトの完成により、日用品・化粧品業界における生産拠点のベンチマークとなることを目指すとともに、上海市奉賢区の経済発展を推進し、優れた人材の雇用創出を図る。

Ⅱ型コラー

ペインのバイオ医薬品企業・バイオイベリカと戦略的提携協定を締結したと発表した。

両社は、「b-2Co01非変性Ⅱ型コラーゲン」および「Mob-1ee鶏冠抽出物」の2種類の原材料を配合した製品の研究開発と市場投入を行う。共に、中国およびオーストラリア市場向けの製品。

さらに、①関節保護作用を訴求する新製品の開発②骨と関節の健康を含むバイオマーカーの研究と機序研究の展開③動物由来新規成分の共同開発などを推進し、提携関係を築いていく。

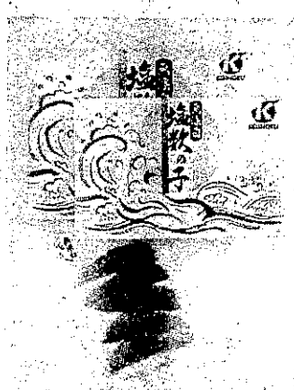
なお、バイオイベリカ

自社ブランド品を発売

恒食

年末・年始商品「無漂白数の子」

㈱恒食は、年末・年始商材の「無漂白数の子」の発売に向けて動き始めた。昨年まで同社は、メーカーの"イチウロコ"ブランドの商品を販売していたが今年からは"恒食"ブランドを前面に出して販売する。



手洗いで仕上げる「無漂白数の子」

新ブランドに変更するに際して、アラスカ産のニシンからカナダ産に変更。ここ数年、ニシンの収穫量も減少傾向にあるなか、質量ともに満足できる供給先を確保した。

同社の無漂白数の子は、水洗いから仕上げまですべて手作業だが、この部分は従来と変わりない。

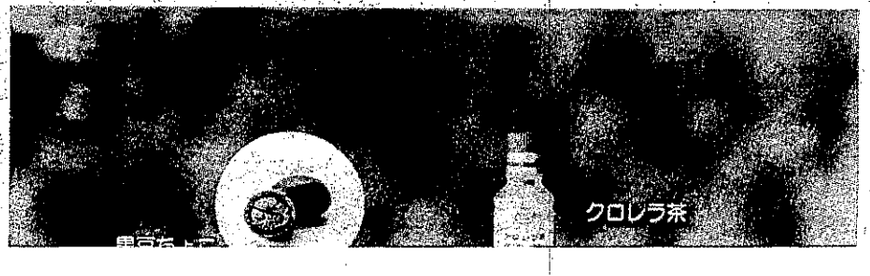
アニサキスをピンセットで除去→海水で洗浄→浸す→、という面倒な血抜き作業も、日に数回、手作業で行い、最後を沖縄製の平釜塩で仕上げる。

数の子は一般的には過酸化水素や亜硝酸塩を使って漂白して黄色に仕上げるが、同社はこれらの物質を一切使っていない。

商品構成も若干変更し、500㌘（8640円＝税込み、以下同）、300㌘（5238円）、120㌘（1944円）の3種類用意した。

最近は数の子の健康効果も明らかになっており、この点も訴求する。例えば、数の子が含有するEPA、DHAはリン脂質の状態で体に取り込まれやすいが、マウス実験では数の子油を混ぜたエサを食べさせるとコレステロールや中性脂肪が低下したとの報告がある。また、数の子油成分の中にはルテインやCoQ10、ビタミンEも含まれており抗炎症作用等がヒト試験でも明らかになっている。

同社では、「長年、無漂白数の子を売った実績を元に"恒食"ブランドを前面に打ち出すことにした。より当事者意識をもって販売していく」（瀬尾原起社長Ⅱ写真）と述べている。

原料供給スタート。

ーパーフードの元祖"ともいえる『クロレラ』。優れた栄養成分のほか
旨みやコクの数値が高いことから、幅広く商品開発やメニュー開発